

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本語教育実習Ⅰ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-川野 さちよ	3 年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 1.「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ指導理論と演習内容を模擬授業において、他者とともに実践することができる 2. 授業見学を通し、自らが注目する観点を絞り、洞察・探究する姿勢を養う	メッセージ 学内で開講されている日本語クラスの見学を行い、留学生への効果的な授業方法を学びましょう。30分の初級と中級の模擬授業は、教壇実習のための練習です。創意工夫をし、しっかり取り組みましょう。
	到達目標 1. 初級レベルと中級レベル30分の教案・教材作成、模擬授業を行い、授業の流れを理解することができる 2. 模擬授業をする過程において、履修生と共に学び、多角的な視点を取り入れたよりよい授業を創ることができる	

学びの実践	<div> <div>学びのヒント</div> <div>授業計画</div> </div>		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要説明等）	
	2	授業見学の心構え、教案作成について	授業見学
	3	模擬授業について（初級レベル）	授業見学
	4	模擬授業について（中上級レベル）	授業見学
	5	模擬授業1『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』14課、17課	授業見学
	6	模擬授業2『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』18課、19課	授業見学
	7	模擬授業3『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』20課、22課	授業見学
	8	模擬授業4『みんなの日本語 初級Ⅰ&Ⅱ 第2版』24課、26課	授業見学
学びの実践	9	模擬授業5『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』27課、28課	授業見学
	10	模擬授業6『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』33課、37課	授業見学
	11	模擬授業7 中級レベル（会話、聴解）	授業見学
	12	模擬授業8 中級レベル（作文、読解）	授業見学
	13	模擬授業9 中級レベル（文法、読解）	授業見学
	14	模擬授業10 中級レベル（日本事情、日本事情）	授業見学
	15	模擬授業11 中級レベル（沖縄事情、沖縄事情）	授業見学
	16	模擬授業12 中級レベル（沖縄事情、沖縄事情）	
	<div> <div>テキスト・参考文献・資料など</div> <div>『みんなの日本語 初級Ⅰ第2版』スリーエーネットワーク</div> <div>『みんなの日本語 初級Ⅱ第2版』スリーエーネットワーク</div> <div>その他の参考文献リストは授業で紹介します。</div> </div>		
	<div> <div>学びの手立て</div> <div>授業見学では、何を観察するのか、目的を絞り、前もってポイントを決めておきましょう。観察するだけではなく、積極的に留学生のアシスタントとしても手伝いをしましょう。授業見学で学んだことを模擬授業に活かしましょう。</div> </div>		
	<div> <div>評価</div> <div>○授業参加度20%、提出物20%、授業見学報告レポート20%、最終レポート20% 模擬授業20%</div> </div>		

学びの継続	<div>次のステージ・関連科目</div> <div>○「日本語教材研究演習」、「日本語教授法演習Ⅰ」、「日本語教授法演習Ⅱ」、「日本語教育実習Ⅰ」を履修した後は、「日本語教育実習Ⅱ」へ進む。</div> <div>○日々の生活の中で出会う沖縄に住む「外国につながる人たち」のことを考える。</div>
-------	--

※ポリシーとの関連性		今まで学んできた理論などを踏まえて、実際に日本語を教える経験をします。		[ /実験実習]	
科目基本情報	科目名 日本語教育実習Ⅰ		期 別	曜日・時限	単 位
			後期	木 5	2
	担当者 奥山 貴之		対象年次	授業に関する問い合わせ	
			3 年	emailで、授業後教室で受け付けます。	
学びの準備	ねらい 日本語副専攻としての最初の実習授業です。実習Ⅱでは実際に外国人に日本語を教えますが、その前段階として、受講者が外国人学習者の役割を務める模擬授業をします。教師と学習者の両方の立場を経験することで、授業についてより深く理解し次の実践につなげます。		メッセージ 授業の準備、実践、振り返り、を通して相手（学習者）の立場に立って考え、授業を組み立てる力を身につけましょう。		
	到達目標 ①日本語学習の初級レベルの基本的な教室活動の流れを学び、実践できるようになる。 ②日本語学習の初級レベルの文型・文法を分析、直接法で導入することができるようになる。 ③学習者が何が分からないか、何ができないかをよく考えた上で授業を実践できるようになる。 ④日本語学習の初級レベルの基礎練習と会話練習をデザインすることができるようになる。 ⑤これらのために必要な教材を作ることができるようになる。 ⑥他者と自分の実践を客観的に捉え、分析できるようになる。				
学びの実践	学びのヒント 授業計画				
	回	テーマ			時間外学習の内容
	1	ガイダンス			
	2	初級の教室活動①直接法の導入と基本練習			課題作成
	3	初級の教室活動②会話練習			課題作成
	4	教案と授業例			
	5	模擬授業準備			
	6	模擬授業①			模擬授業準備
	7	模擬授業②			模擬授業準備
	8	模擬授業③			模擬授業準備
	9	模擬授業④			模擬授業準備
	10	フィードバック			
	11	模擬授業⑤			模擬授業準備
	12	模擬授業⑥			模擬授業準備
	13	模擬授業⑦			模擬授業準備
	14	模擬授業⑧			模擬授業準備
	15	フィードバック			
	16				
	テキスト・参考文献・資料など 『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』スリーエーネットワーク 模擬授業で用いる教科書				
学びの手立て グループで模擬授業を担当することになります。お互い協力し合い、学び合う姿勢を持って取り組んでください。 。					
評価 授業参加度 1 0 % 課題 2 0 % 模擬授業 4 0 % 模擬授業の評価 1 5 % 模擬授業のふり 返 り 1 5 %					
学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本語教育実習Ⅱ」				

※ポリシーとの関連性		学習者、学習者の目的、学習内容、学習方法を、日本語教師として分析できるだけでなく、自文化・多文化への理解も深めていける。		[ /実験実習]	
科目基本情報	科目名	期 別	曜 日 ・ 時 限		単 位
	日本語教育実習Ⅱ	前期	木 4		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ		
	奥山 貴之	4 年	Eメール、授業後教室で受け付けます。		
学びの準備	ねらい 学内の留学生に対する日本語クラス、夏期日本語研修プログラムで教壇実習を行う。 教壇実習だけでなく、ニーズ調査、プレイスメントテスト、習熟度テスト、教材作成、コースデザインなど、幅広く経験を積む。		メッセージ ・教壇実習は、学習者の貴重な時間を使わせてもらうことをしっかり認識して、責任ある言動をとってください。 ・お互いに学び合う姿勢を持って、実習生同士、日本語学習者から多くものを学んでください。 ・準備と練習が足りないことはあっても、多すぎることはありません。しっかり準備しましょう。		
	到達目標 ・授業を見学し、授業の意図や意味、学習者の状況を把握することができる。 ・「初級」「中級」「上級」クラスの違いを理解し、授業に活かすことができる。 ・初級クラスの「漢字・発音」クラスの指導担当をする。 ・夏期日本語研修の「沖縄事情」も実習に含まれる。 ・教務作業に関わり、教壇での授業以外の日本語教師の業務を体験する。 ・日本語教育機関を訪問・見学し、日本語教育の現場についての理解を深める。				
学びの実践	学びのヒント 授業計画				
	回	テーマ		時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション			
	2	学内日本語クラスと、夏期プログラムでの実習について			
	3	初級・中級・上級の指導（会話・聴解）			
	4	初級・中級・上級の指導（語彙・作文）			
	5	初級・中級・上級の指導（文法）			
	6	評価法			
	7	模擬授業の準備			
	8	模擬授業と教壇実習報告①			
	9	模擬授業と教壇実習報告②			
	10	模擬授業と教壇実習報告③			
	11	模擬授業と教壇実習報告④			
	12	模擬授業と教壇実習報告⑤			
	13	模擬授業と教壇実習報告⑥			
	14	模擬授業と教壇実習報告⑦			
	15	模擬授業と教壇実習報告⑧			
	16	まとめ			
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版本冊』『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』スリーエーネットワーク その他、適宜授業の中で紹介する。				
	評価 実習への取り組み、課題や提出物、その他を含め、総合的に評価する。				
	次のステージ・関連科目 「海外日本語教育実習」海外日本語教員インターン				

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本語教育実習Ⅱ	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	4 年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい 大学内の外国人科目等履修生のための日本語の初級と中級レベルのクラスで教育実習を行う。また短期日本語研修生のための授業を実際に担当する。ニーズ調査方法の検討及び実施、プレイスメント・テストや習熟度テストの作成と実施、目標の設定とコースデザインの検討等がある。そして指導案作成の後、検討し、リハーサルを行い、実際に授業を担当する。さらに教材作成、評価方法も学ぶ。	メッセージ いよいよ最後の科目となりました。本学に設置されている日本語クラス、あるいは、海外の協定校での3週間の実習は、貴重な体験となります。実習の流れを把握し、日本語教師として自信に繋がる授業を行いましょう。
	到達目標 初級、あるいは、中上級クラスの留学生に実習を行う。実践することにより、日本語教師としての貴重な体験を得る。また、自らの日本語や日本文化（沖縄の文化）についての知識を確かめ、気付くことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要説明等）、実習の順番決め	
	2	日本語教育実習について	初級漢字補講クラスの担当
	3	教案作成について	初級漢字補講クラスの担当
	4	授業見学について日本語・日本語教育に関する発表 1	初級漢字補講クラスの担当
	5	短期語学文化研修のための教材作成について日本語・日本語教育に関する発表 2	初級漢字補講クラスの担当
	6	実習のための模擬授業 1日本語・日本語教育に関する発表 3	日本語教育実習・漢字補講クラス
	7	実習のための模擬授業 2、実習報告 1日本語・日本語教育に関する発表 4	日本語教育実習・漢字補講クラス
	8	実習のための模擬授業 3、実習報告 2日本語・日本語教育に関する発表 5	日本語教育実習・漢字補講クラス
	9	実習のための模擬授業 4、実習報告 3日本語・日本語教育に関する発表 6	日本語教育実習・漢字補講クラス
	10	実習のための模擬授業 5、実習報告 4日本語・日本語教育に関する発表 7	日本語教育実習・漢字補講クラス
	11	実習のための模擬授業 6、実習報告 5日本語・日本語教育に関する発表 8	日本語教育実習・漢字補講クラス
	12	実習のための模擬授業 7、実習報告 6日本語・日本語教育に関する発表 9	日本語教育実習・漢字補講クラス
	13	実習のための模擬授業 8、実習報告 7日本語・日本語教育に関する発表10	日本語教育実習・漢字補講クラス
	14	実習報告 8日本語・日本語教育に関する発表11	日本語教育実習・漢字補講クラス
	15	全体のまとめ、学内日本語スピーチコンテストについて	初級漢字補講クラスの担当
	16	日本語教育実習の振り返り	初級漢字補講クラスの担当
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など		
	配布資料と参考文献を中心に講義を行う。 日本語教育実習Ⅰで示した参考文献と以下を活用する。『わざ 光る授業への道案内』今村 和宏(アルク)、『心と心がふれ合う 日本語授業の創造』縫部 義憲(歴々社)、『日本語教育の実習 理論と実践』岡崎 敏雄他(アルク)		
	学びの手立て		
学びの実践	今まで学んできた理論を十分に活かし、教壇実習を行うクラスの見学を重ねて行きましょう。指導案・教材の作成は、担当教員のチェックやアドバイスを受けましょう。準備や模擬授業を十分に行えば、実習はうまく行きます。その後、教師や見学者からのコメント・アドバイス等を受け、振り返り(内省)、次回の参考にしましょう		
	評価		
学びの実践	総合的に評価する。出席率、授業見学、チューター、そして実習の準備（教案作成等）から教材作成、その後教壇実習等、全てが評価の対象となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語教師になるための全ての課程を修了しました。おめでとうございます。次は、地域、県外、あるいは、海外の日本語教師として、活躍しましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本語教育について学ぶ入門科目です。

[ 演習 ]

科目基本情報	科目名 日本語教材研究演習	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	水 5	2
	担当者 奥山 貴之	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2 年	Eメール、授業後教室で受け付けます。	

学 び の 準 備	ねらい 日本語教育副専攻の入門科目です。まず、日本語教育について概要を理解しましょう。主に初級教科書を分析し、学習者が何をどのように学ぶかイメージを持てるようになります。	メッセージ 母語話者にとって当たり前の「日本語」を、非母語話者がどのように学ぶのか、相手の立場に立って考えられるようになります。
	到達目標 ・日本語教育について、学習者・学習目的・学習方法・テキストなどの概要が分かる。 ・「日本語能力」について、様々な視点があることを知る。 ・日本語母語話者に対する「国語教育」と、非母語話者に対する「日本語教育」の違いがわかる。 ・日本語教育で使われる教科書の概要が分かる。 ・教材分析の方法を学び、初級教科書の分析ができるようになる。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	日本語学習者と日本語教育機関	復習
	3	留学生に対する日本語教育	同上
	4	児童・生徒に対する日本語教育	同上
	5	ビジネス日本語	同上
	6	地域の日本語教育	同上
	7	日本語教育と国語教育	同上
	8	日本語教育と日本事情	同上
	9	教材分析の視点と方法	発表準備
	10	教材分析①	発表準備
	11	教材分析②	発表準備
	12	教材分析③	発表準備
	13	教材分析④	発表準備
	14	教材分析⑤	発表準備
	15	教材分析⑥	総復習
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版本冊』『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』スリーエーネットワーク を分析対象の教科書とする。 参考文献は適宜授業の中で紹介する。		
	学びの手立て ・だれが、なにを、どのように、学ぶのか、「母語としての日本語」という枠を取り払って考えていきましょう。 ・課題や発表は「教材分析」以外にも入っていきます。 ・学内の留学生と交流するイベントや授業に積極的に参加してください。 ・自分の外国語の学習についてもよく考えて、日本語教育について考えるヒントにしましょう。		
	評価 期末試験（30％） 発表（30％） 課題（20％） 平常点（20％）		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
	「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ」

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本語教材研究演習	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	2 年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい 日本語教育用教材の基礎知識を学び、教材全体を体系的に把握し比較分類する。また個々の教材の分析などを通して、実際の現場でよりよい教材の活用ができることを目標とする。具体的には、「教材論の体系的把握」「学習者と教材」「コースデザインと教材」「教科書と副教材」「教材の比較分類」「教材の具体的使用法」等	メッセージ 留学生が使用している教材を積極的に図書館や書店で手に取って見てみましょう。教材は、皆さんの周りにたくさんあります。創意工夫をし、効果的な教材を使用した授業を行えるようにしましょう。
	到達目標 日本語教育に必要な「教材」に関する専門的な知識・能力を習得する。	

学びの実践	<div> <div>学びのヒント</div> <div>授業計画</div> </div>		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要紹介等）	書籍の調査
	2	日本語教育の現状、日本語教育とは何か、教材とは何か。	
	3	学習者・日本語教師・教授法・教材の多様化について。発表 1 「私の小道具活用法」	
	4	教材の比較分類表の作成について。発表 2 「私の小道具活用法」	
	5	教科書と副教材の全体分析と課分析について。発表 3 「私の小道具活用法」	
	6	発表 4 「教材の比較分類表」 総合型教材（初級・中郵・上級）	
	7	発表 5 「教材の比較分類表」 技能型教材（読解・聴解・文章表現・口頭表現）	
	8	発表 6 「教材の比較分類表」 言語要素別教材（文字・音声・文法）	
学びの実践	9	発表 7 「教材の比較分類表」 対象別・目的別教材、沖縄事情・日本事情	
	10	発表 8 「教材の比較分類表」 視聴覚教材（絵・映像・ゲーム等）	
	11	発表 9 『みんなの日本語Ⅰ』 課分析	
	12	発表10 『みんなの日本語Ⅰ』 課分析	
	13	発表11 『みんなの日本語Ⅱ』 課分析	
	14	発表12 『みんなの日本語Ⅱ』 課分析	
	15	発表13 『みんなの日本語Ⅱ』 課分析	
	16	まとめのテスト	
	<div> <div>テキスト・参考文献・資料など</div> <div> 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』（本冊）スリーエーネットワーク  『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』（本冊）スリーエーネットワーク  プリント使用。必要に応じて資料等を配布。  『日本語教材概説』 河原崎 幹夫他著 北星道書店  『日本語教授法』 石田敏子著 大修館書店  『日本語教科書ガイド』 国際交流基金  『日本語教育の教材』 岡崎 敏雄著 アルク </div> </div>		
	<div> <div>学びの手立て</div> <div> 留学生が使用している教材・教具をたくさん見て行きましょう。本屋や図書館にも足を運び、どのようなものが使用されているのか、実際に手に取って見てみましょう。全体的に分析した後、課ごとの構成、使用されている文法や語彙、会話等がどのようになっているのか、調べてみましょう。 </div> </div>		
	<div> <div>評価</div> <div> 総合的に評価するが、特に平常点を重視する。よって出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。さらに期末テストの評価が加わる。 </div> </div>		

学びの継続	<div>次のステージ・関連科目</div> <div>「日本語教材研究演習」を履修した後は、「日本語教授法演習Ⅰ」へ進む。</div>
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本語教授法演習Ⅰ	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 朋子	2 年	講義終了時に受け付ける	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	到達目標			
学びの実践	日本語教授法演習Ⅰでは、外国語としての日本語教育が目指すものに触れた後、日本語教育の歴史的背景を概観する。そして主要な教授法とその基盤となる第二言語習得理論に触れ、教師の役割、指導技術、そして手順等を比較し、長所・短所を実践的に見極めていく。また、日本語の音声、文字、語彙等の特徴を捉え、それらの指導法も学ぶ。	日本語教育の基盤となる知識や方法論を実践的に学んでいくため、課題調や発表等が多々課されるが、しっかりと取り組んで欲しい。		
	外国語の教授法について調べ、その教授法を用いて実際に授業で用いることができるようになる。 日本語教育の歴史を概観し、現在の日本語教育のあり方や目標等を理解する。 日本語学習者の発音の問題点に気付き、その指導の方法を学ぶ。 日本語学習者の課題を通して、文字指導や語彙指導の基盤的となる知識を得る。			
	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション		
	2	日本語学習者と日本語のレベル		
	3	外国語教授法のいろいろ①		
	4	外国語教授法のいろいろ②	発表とデモンストレーション	
	5	外国語教授法のいろいろ③	〃	
	6	外国語教授法のいろいろ④	〃	
	7	日本語教育の歴史①	調査発表	
	8	日本語教育の歴史②	〃	
	9	日本語の音声の特徴とその指導①	課題：インタビュー	
	10	日本語の音声の特徴とその指導②	〃	
	11	日本語の文字とその指導①	漢字指導の実際	
	12	日本語の文字とその指導②	〃	
	13	日本語の語彙とその指導	課題：類似表現について	
	14	中間言語と誤用分析①	誤用分析の実際	
	15	中間言語と誤用分析②	〃	
16	まとめと最終試験			
テキスト・参考文献・資料など	『ベーシック日本語教育』佐々木泰子著』（ひつじ書房） 『日本語教授法』（改訂新版）石田敏子（大修館書店） 『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』（アスク） 『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』（アスク） 『日本語教育ハンドブック』日本語教育学会編 『日本語教育辞典』日本語教育学会編他			
学びの手立て	しっかり基本図書を読み込み基礎知識を蓄積していったほしい。そして、実際に日本語学習者と接し、彼等が抱える課題を発見し、より効果的な日本語の伝え方を考えてみて欲しい。			
評価	授業態度（クラス活動への参加度／貢献度）、出席率、課題への取り組み、発表、提出物、最終試験等から総合的に判断する。提出物は、期日以降は受けつけない。実践的な授業であるため、欠席は理由がある場合のみ4回までで、5回以上の欠席の場合には試験は受けられないことになる。			
学びの継続	次のステージ・関連科目			
	次のステップは、日本語の文法の指導、ドリルの種類、カリキュラムの立て方、聴解の指導、話し方の指導等、具体的な指導技術に入っていくため、この授業でしっかりと基礎を固めて欲しい。			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本語教授法演習Ⅰ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	2 年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	
学びの準備	ねらい 外国語としての日本語教育がどのように始まり、どのような経緯を辿ったか概観した後、現在国内外で広く用いられている教授法・指導法がどのような言語理論、学習理論、教授理論に基づいているか比較検討する。	メッセージ 外国教授法の変遷を学ぶことにより、いろいろな教授法を取り入れ、教育の効果を図りましょう。多様化が進む日本語教育では様々な教育が求められます。日本語教師はできるだけ多くの教授法を研究し、状況によって使い分ける工夫ができるようになりましょう。		
	到達目標 さまざまな種類の外国語教授法を知る。日本語教育の始まりから現在に至るまでの歴史がわかる。日本語の音声の特徴とその指導方法、日本の文字とその指導方法について、どのようになっているのか調べ、簡単な模擬授業が行えるようになる。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション（講義概要説明等）、発表の順番決め	各国の日本語教育の現状の調査	
	2	日本語教育の現状、「第1章 日本語教育の特色」	日本、中国、台湾	
	3	「第2章 母語の学習と外国語」（母語の役割、誤用分析と中間言語、異文化理解教育）	韓国、マカオ	
	4	発表1「第3章 外国教授法のいろいろ」翻訳法、直接法	インドネシア、ベトナム	
	5	発表2「第3章 外国教授法のいろいろ」ベルリッツ、グアン、パーマー、オーディオリンガル	カンボジア、タイ、インド	
	6	発表3「第3章 外国教授法のいろいろ」アーミー・メソッド、TPR	フィリピン、香港、シンガポール	
	7	発表4「第3章 外国教授法のいろいろ」サイレント・ウェイ、CLL	オーストラリア、ニュージーランド	
	8	発表5「第3章 外国教授法のいろいろ」サジェスト・ペディア、ナチュラル・アプローチ	アメリカ、カナダ	
	9	発表6「第3章 外国教授法のいろいろ」コミュニケーション・アプローチ、GDM	フランス、ドイツ	
	10	発表7「第3章 外国教授法のいろいろ」VT法、ACTFL・OPI	オランダ、スペイン	
	11	発表8「第3章 外国教授法のいろいろ」異文化トレーニング、シャドーイング	メキシコ、ペルー	
	12	発表9「第4章 日本語教育の歴史」	アルゼンチン、ボリビア	
	13	発表10「第5章 日本語教育の目標」	ブラジル他	
	14	発表11「第7章 日本語の音声と特徴とその指導」		
	15	発表12「第8章 日本の文字とその指導」		
	16	まとめの試験		
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など (1) 石田 敏子『改訂版 日本教授法』 大修館書店 (2) 『みんなの日本語Ⅰ 第2版』（本冊）スリーエーネットワーク 参考図書リストをクラスで配布する。			
	様々な外国の教授法を日本語教育にどのように活かせるのか、長所や短所を見つけましょう。また、日本語教育の現在に至るまでの歴史的背景を学びましょう。その他、海外の日本語教育の現状と課題についても調べていきましょう。			
	評価 総合的に評価する。出席率＋授業への参加度＋発表＋レポート＋テスト			
学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本語教材研究演習」、「日本語教授法演習Ⅰ」を履修した後は、「日本語教授法演習Ⅱ」へ進む。			



科目基本情報	科目名 日本語教授法演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	月 2	2
	担当者 -川野 さちよ	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3 年	授業の前後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「わたし」にとって日本語教育とは何かを考え、問い続け、実践していくために、「日本語を教える」という一つの側面から日本語教育を学ぶ。	メッセージ 第一言語、第二言語に関わらず、人はどのようにことばを学んでいるのか、日々の生活から考えてみましょう。
	到達目標 1. 自らの学習経験の振り返りをきっかけに、「ことばを学ぶこと」「ことばを教えること」について多角的な視点から考え続けることができる。 2. 日本語教育の目的・対象・場所等が異なる多様な日本語教育の場を理解し、各々の場に適したカリキュラム・シラバス・教え方を考え、他者と共に創ることができる。	

学びの実践	<div> <div>学びのヒント</div> <div>授業計画</div> </div>		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	なぜ、いつ、どこで、だれが、だれに、どうやって日本語を教えるのか	多様な日本語教育
	2	「語彙を学ぶ」「語彙を教える」ことについて①	第2～3週目：「語彙」の観点から
	3	「語彙を学ぶ」「語彙を教える」ことについて②	第二言語学習・活動を意識化する
	4	「文法を学ぶ」「文法を教える」ことについて①	第4～5週目：「文法」の観点から
	5	「文法を学ぶ」「文法を教える」ことについて②	第二言語学習を意識化する
	6	●「聞ける」とは何か ●「聞くことを教える」について①	第6～7週目：「聞く」の観点から
	7	●「聞ける」とは何か ●「聞くことを教える」について②	第二言語学習を意識化する
	8	●「話せる」とは何か ●「話すことを教える」について①	第8～9週目：「聞く」の観点から
学びの実践	9	●「話せる」とは何か ●「話すことを教える」について②	第二言語学習を意識化する
	10	●「読める」とは何か ●「読むことを教える」について①	第10～11週目：「聞く」の観点から
	11	●「読める」とは何か ●「読むことを教える」について②	第二言語学習を意識化する
	12	●「書ける」とは何か ●「書くことを教える」について①	第12～13週目：「聞く」の観点から
	13	●「書ける」とは何か ●「書くことを教える」について②	第二言語学習を意識化する
	14	「評価をする」「評価をされる」ことについて	日常で起こる「評価」を考える
	15	シラバス、カリキュラムについて	言語学習の枠を考える
	16	今までの振り返り、日本語をどうやって教えたいか	目指す日本語教育を言語化する
	<div> <div>テキスト・参考文献・資料など</div> <div>参考文献</div> <div>(1) 石田敏子(2002)『改訂新版日本語教授法』大修館書店</div> <div>(2) 坂本正・川崎直子・石澤徹[監修](2017)『日本語教育への道しるべ 第3巻ことばの教え方を知る』凡人社</div> <div>その他の参考文献のリストはクラスで配布する。</div> </div>		
	<div> <div>学びの手立て</div> <div>1. 自らも第二言語、第三言語を学ぶ機会を多くつくり、「ことばを学ぶこと」を振り返りながら自分自身が「いい」と考える学習環境をまとめてみましょう。</div> <div>2. 第二言語として日本語を学んでいる人たちと話してみましょう。</div> </div>		
	<div> <div>評価</div> <div>・授業参加度 ……30%</div> <div>・提出物 ……30%</div> <div>(授業後の振り返りシート、次週までの課題に取り組み、いかに考えたかを観点に評価します)</div> <div>・課題の発表 ……20%</div> <div>・最終レポート……20%</div> </div>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本語教育実習Ⅰ」、「日本語教育実習Ⅱ」へと進む。
-------	---

※ポリシーとの関連性

この科目の到達目標は、日本語教授法演習Ⅰと併せ、日本語教育の現場における網羅的な知見を得ることである。

[

／演習]

科目基本情報	科目名 日本語教授法演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	木 5	2
	担当者 -石原 嘉人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3 年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 日本語教授法演習Ⅰに引き続き、種々の日本語教授法と指導法の理論と実践について考察する。加えてカリキュラム構築の留意点とコース・デザインの方法についても論じる。 実際の授業の進め方については別にシラバスを作成し、クラスで配布する。	メッセージ 日本語教育に携わって30年の経験をもとに実践的な授業を行います。
	到達目標 傍観者としてでなく、実践者として語学の指導における要点を身につけることができるようになる。具体的な教授項目について知見を得るだけでなく、学習者のエラーの原因を探る、アプローチの方法や心構えについて様々なアイデアを提起して試行錯誤するなど、実践を通して身につけるような知見を得ることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文法と語彙の関係について概説	語彙の分類の実践
	2	日本語の語彙とその指導	語義の素性分析
	3	日本語の語彙とその指導	文法項目の説明（１）
	4	文法の指導と様々な練習スキル	文法項目の説明（２）
	5	文法の指導と様々な練習スキル	問題文の作成
	6	聴解の指導	誤答の解説
	7	聴解の指導	
	8	話し方の指導	会話教材作成
	9	話し方の指導	
	10	読解の指導	読解教材作成
	11	読解の指導	
	12	書き方の指導	添削の実践
	13	日本語教育における評価法	
	14	日本語教育における評価法	
	15	カリキュラムのたて方・日本語教師の心構え	各自の意見を言語化する
	16	期末テスト	
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 （１）姫野伴子ほか『日本語教育学入門』 研究社 （２）『みんなの日本語（初級Ⅰ本冊）』		
	【参考文献・その他】 『基礎日本語文法』益岡隆志・田窪行則（くろしお出版）など、参考図書リストをクラスで配布する。		
評価	学びの手立て 日本語教師として、まず基礎的な知識とスキル、そして感性を磨くことを目指しています。積極的に教室活動等に参加すること。受講終了後には、地球市民として自立し専門的に活躍していくための豊かな教養、言語表現力を身につけていくことを目標してください。		
	評価 聴解指導、読解指導、会話指導などに関する理論を学んだ上で、各自で自主教材を作成し、その妥当性を検証する。「出席率＋授業内での発表＋レポート提出＋テスト＋授業態度」を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	（１）履修上の注意としては、「日本語表現法演習Ⅰ&Ⅱ」「日本語現代語文法Ⅰ&Ⅱ」「日本語教材研究演習」等を履修済みのこと。 （２）受講終了後には、地球市民として自立し専門的に活躍していくための豊かな教養、言語表現力を身につけていくことを目標してください。